

二酸化硫黄の測定結果（令和元年度）

大気中の二酸化硫黄は、大気汚染物質の中でも代表的な物質であります。主として重油等石油系燃料に含まれる硫黄分の燃焼により発生するもので、その主な発生源は、工場・事業場のばい煙発生施設です。

令和元年度に、二酸化硫黄について19測定局で測定した結果は下表のとおりであり、これらを平成30年度と比較すると、横ばいの傾向にあります。

年平均値は、各務原測定局、羽島測定局及び笠原測定局の0.004ppmが最も高い状況にありました。

なお、短期的評価、長期的評価に基づく環境基準はすべての測定局で達成しました。

地域	測定局名	有効測定日数 (日)	測定時間 (時間)	年平均値 (ppm)	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値 (ppm)	日平均値の2%除外値 (ppm)	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	長期的評価の適否 適○否×	平成30年度		
					時間	%	日	%					年平均値 (ppm)	長期的評価の適否	
岐阜	岐阜中央	366	8681	0.000	0	0.0	0	0.0	0.008	0.002	無	○	0.000	○	
	岐阜南部	366	8675	0.000	0	0.0	0	0.0	0.008	0.002	無	○	0.001	○	
	岐阜北部	366	8681	0.000	0	0.0	0	0.0	0.006	0.001	無	○	0.000	○	
	各務原	362	8701	0.004	0	0.0	0	0.0	0.015	0.006	無	○	0.004	○	
	本巣	361	8661	0.001	0	0.0	0	0.0	0.006	0.002	無	○	0.001	○	
	平均	-	-	0.001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.001	-
西濃・羽島	羽島	174	4165	0.004	0	0.0	0	0.0	0.014	0.006	無	非適用	0.005	○	
	大垣中央	364	8697	0.001	0	0.0	0	0.0	0.027	0.005	無	○	0.002	○	
	大垣南部	297	7171	0.003	0	0.0	0	0.0	0.027	0.009	無	○	0.003	○	
	大垣西部	364	8728	0.001	0	0.0	0	0.0	0.017	0.003	無	○	0.002	○	
	平均	-	-	0.002	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.003	-
可茂	美濃加茂	364	8726	0.003	0	0.0	0	0.0	0.018	0.006	無	○	0.003	○	
中濃	関	364	8701	0.001	0	0.0	0	0.0	0.005	0.002	無	○	0.001	○	
郡上	郡上	31	740	0.000	0	0.0	0	0.0	0.004	0.001	無	非適用	-	-	
東濃西部	笠原	364	8721	0.004	0	0.0	0	0.0	0.017	0.006	無	○	0.004	○	
	瑞浪	364	8699	0.001	0	0.0	0	0.0	0.008	0.001	無	○	0.001	○	
	平均	-	-	0.003	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.003	-
恵那・中津川	恵那	364	8700	0.000	0	0.0	0	0.0	0.006	0.001	無	○	-	-	
	中津川	364	8701	0.001	0	0.0	0	0.0	0.008	0.001	無	○	0.001	○	
	平均	-	-	0.001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.001	-
下呂	下呂	364	8701	0.000	0	0.0	0	0.0	0.005	0.001	無	○	0.000	○	
飛騨	高山	362	8716	0.002	0	0.0	0	0.0	0.009	0.006	無	○	0.002	○	
乗鞍	乗鞍	364	8693	0.000	0	0.0	0	0.0	0.012	0.001	無	非適用	0.000	非適用	
県平均	-	-	-	0.001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.002	-

備考) 1 県環境管理課調べ

2 環境基準の長期的評価に適合しているとは、測定時間が年間6,000時間以上あり、日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続せず、かつ、日平均値が0.04ppmを超えた日数が年間を通じて2%以下であることを示す。

3 県平均は、長期的評価の適用測定局の年平均値から算出した値とする。